

## 目標達成計画

作成日: 平成26年2月3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1・18	理念を見つめ直して、自分自身を振り返る。入社時の新鮮な思いをもう一度思い出し、利用者に接することで、利用者主体のホームになり、信頼関係を深めていく。	理念について職員全員で話し合い振り返ることで、利用者と職員が単に利用者と介助者という立場ではなく、家庭で支え合えるような安心した関係を築く。	研修時に職員全員で定めている理念を復唱し、続いてその中味について話し合う。利用者とは話す時は目線を合わせて、ゆっくりとした口調でお話する。利用者の声掛けには、大きな声ではっきりと笑顔で対応し、相手が話しかけやすい関係作りを築いていく。	6ヶ月
2	13・19	持ち場を離れる際に、毎日のことだから、ちょっとした時間だから言わなくてもいいかなではなく、その間にも事故が起きる可能性もあると常に認識すべきである。はっきりした声で明るく声掛けし合うことは利用者や家族が聞いても見ても気持ちの良いことだと思う。(場合によっては小さい声で伝える)	職員間のコミュニケーション、連携を密にすることで職員同士の信頼関係ができて、利用者にも好印象をもって頂け、コミュニケーションも取りやすくなる。家族と共に本人を支えていく関係を築いていく。	持ち場を離れる場合、ちょっとしたことだと思っても必ず他職員に声がけしてから行動する。例えば早番が台所に入る時は「台所に入ります。(台所に入ってもいいですか。)」など、お茶の準備時、トイレ誘導時、朝のトイレ掃除時他必ず相手に伝わったことを確認してから入る。(トイレ誘導時など〇〇さんとトイレに行きますなどは小さい声で伝える)	6ヶ月
3	2・3	ビルの4階に事業所があるため、近隣の自治会や町内会以外からあまり知られていない。実情と取り組みについても知ってもらい、認知症の人への理解や支援方法を地域の人々に活かしながら協力関係を築いていく。	ビルの4階に位置しているが、地域の社会的良い面を取り入れるとともに資源を利用しながら、利用者が地域の人と馴染み易い関係を築き、地域の一員になって行く。	年2回、春と秋に苑便りを作成して、近隣の自治会や公民館、商店や警察(交番)他に配布して、ポトピアビル4階にあることを知って頂く。そしてそれを読んで頂くことで、苑の活動状況や空室状況、認知症への関心を深めて頂き、またご意見を聞き、関係を深めていく。利用者以外に出して頂くことで顔を覚えてもらい、ふれあい作りをしていく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。